

第5回芹ヶ谷公園再整備基本計画懇談会

日 時：平成27年11月13日（金） 13:30～15:30

場 所：町田市役所 2階 2-1会議室

出席者	委員	真野洋介、海老塚耕一、天野真、伊藤弘一郎、高橋倫正、稲木健志、岩崎俊男、野澤滋享（8名、敬称略）
	事務局	公園緑地課、企画政策課、未来づくり研究所、文化振興課、市立博物館、国際版画美術館、地区街づくり課、生涯学習総務課、防災安全課、児童青少年課 株式会社 協和コンサルタンツ
公開・非公開	公開	
傍聴人数	3名	

◆ 次 第

1. 開会あいさつ
2. 議事要旨の確認
3. 再整備基本計画 報告書（案）について
4. その他

住民意見の反映について

■ 住民意見の反映、対応について

- 資料の「周辺自治会からの意見」は、近隣の住民の多数意見を取りまとめている。重要な事項として取り扱ってほしい。（委員）
- 地域の方は、この公園に様々な所からたくさんの方が来て良いのか、それとも、地域にとって使いやすい愛される公園が良いのか、これは非常に重要なことである。いっぱい人が来ると活気は出るが、それに対して悪い面、いい面、いろいろ出てくる。市は町田市全体を見ているので、この公園のみを考える訳にはいかないが、地域の方は生活に密着しているのでこの公園のみ考えられる。皆さんの考え方、行動や公園への希望が整備や使い方に跳ね返ってくるため、しっかり見据えて市民の方も計画を考えるべきである。市としても市民の考え方や意見がうまくキャッチボールができると良いと思う。（委員）
- 周辺自治会からの意見のような地域の意見は考慮して計画しなければならないので、課題として残す必要がある。（会長）
- 芹ヶ谷公園は、年に2回大きなイベントがあり、地域の住宅を通り大勢の人が訪れるため、公園にたくさんの方が来ても地域が迷惑になるということはない。（委員）
- 通学路や夜間の通勤、地域の話も含め盛り込み課題を整理して報告書に記載する。今後も様々な課題があると思うのでしっかり受け止めていくべきである。（会長）

- スケジュールでは、整備の時期がⅠ期とⅡ期となっている。外灯やトイレなどの整備もスケジュールに入れ込む必要があるが、来年度以降の基本設計、実施設計が進み、ある程度決まらないう意見が言えないので、今回はそのことを課題のところにしっかり書き込んでいく。そして、地域の方には来年度以降にしっかりチェックしてもらう。（会長）

整備テーマ・愛称について

■キャッチフレーズについて

- 公園の全体像が掴みづらいと思った。もう少し、親しみやすいネーミングやキャッチフレーズがあった方がよい。（委員）
- 今後、ネーミングやキャッチフレーズの募集などすれば、公園に関心を持つのではないかと。（委員）

■コンセプト、整備方針の表し方

- 報告書はあまり市民の方の目に触れるものではないので、要約版やパンフレットを作成し、公園のコンセプト、整備方針の設定などを冒頭に出した方がよい。また、テーマが「まちなかで人と緑が出会いふれあう芸術の杜」ではイメージしにくいので、もっと親しみやすいものにすべきである。（委員）

■利用者が作り上げる公園のあり方について

- すべてを決めなければ公園として成立しないのかという疑問がある。そこに来る人がなぜ来るのかということが語られていない。来た人が公園を作っていくような公園でないと生き残れないと思う。未決定な部分が多い公園で、それが育っていくことが重要なのではないかと。公園に入るまでの動線は必要であるが、公園の中の動線は作らずに、安全な形で歩けるような工夫をした公園を造ることが重要である。（委員）
- アートは、五感や時空間等の要素で感じられている。公園にもこれがあることで、素敵な公園になる。良い公園なら人は来る。人伝いで公園の良さは広がってくる。二子玉川の河川敷は何もない所だったが、たくさんの人が集まり、トイレを作る必要が生じた。整備して人を集めるのではなく、何もないから人が集まる公園があってもよい。バーベキューは不要というのはもっともであるがここでやりたいと思ったことをやりたい人が動ける公園になればよい。（委員）
- 全部を今決めるのではなく、基本設計・実施設計の中で、未来の利用者のことを考えて決めるべきものであることはわかるが、主には道の規格など前提となる部分を課題として残す必要がある。（会長）
- コミュニティに必要な設備は検討したが、公園とは何かという本質の議論にはならなかった。設備は、利用者が決めるものである。今後は、色々な人を巻き込み、公園を育てていく必要がある。（会長）

整備方針、整備内容について

■動線について

- 基本設計、実施設計が2期に分かれるということは、公園全体を考える機会は、基本計画の今回のみである。（委員）

- 動線の計画について、この通りを通るとどんな事になるのかということが計画の中に記載されても良いと思う。例えば、この動線は通学路であり、地域の方と交流できる道やこの動線はペットが散歩する道など動線の特徴ができると良い。スロープで下りる所は、機能的には必要であるが、アートを置いてアートのスロープとすることもできる。動線にも特徴があれば良い。（委員）
- 以前から言っているが、駅を降りたら公園を感じるような親しみのあるイメージがあるといい。そういう意味では、公園の入口がなくても良い。いつの間にか公園の中にいるや自分の家は公園の中にあるというイメージの方がよいと思う。（委員）
- どんな公園を目指して再整備をしていくのかという要約のようなものが、冒頭にあった方が良い。（委員）
- 国際版画美術館があり、（仮称）国際工芸美術館もできる。町田市で美術館があるのは芹ヶ谷公園だけであるため、子どもから大人までの勉強の拠点を目指し、市域全体から集まってくる事を考える必要がある。駅から公園までの動線、バスや乗用車も含めて気軽に来られることも必要。駐車場は少ないので、公園の外も含めて考えた方が良い。（委員）
- 防災、アクセスとして坂道の問題がある。公園や国際版画美術館に行くのに坂道があり行きたくても行けない人がいる。（仮称）国際工芸美術館にエレベータができればそのような人たちが行ける様になる。（委員）

■防災面について

- 地域にある大きな公園は芹ヶ谷公園だけである。災害があれば、学校や公園に避難するため、整備の中で防災機能を入れていくべきである。中越地震のときは、学校が避難所として使われたのは少なく、地域のいろいろな所に避難していた（委員）
- 広域の指定避難所は小中学校が指定されていることが多いが、町田第二小学校と町田第二中学校の間に公園がある。災害が発生したときの公園と小中学校が連携や緊急車両、物資輸送車両の搬入、避難の空間、避難者への対応など様々なことを検討し、地域防災計画に再整備をした芹ヶ谷公園がどういう位置づけになるのかについて、防災部署と協議する必要がある。（会長）
- 防災の施設は多目的広場に入っていると思っていたが、芝生広場なのか。（委員）
- 芝生広場には仮設トイレやかまどベンチを設置していく。今後も流動的に検討する。（事務局）
- 避難は芝生広場だけではなく、多目的広場にも集まる。芝生広場に防災機能があるのではなく、多目的広場でも使えるようにすることが重要。（委員）
- 防災訓練は何度も多目的広場でやっている。消火訓練は許可が出なくてできない。（委員）
- 火を使って防災訓練をやらないと意味がないが、地元住民の苦情を考慮して、最近はやっていない。（事務局）
- 周辺住民は苦情を言わないと思う。（委員）
- 芝生広場ができたなら芝生広場でも防災訓練を行うなど訓練の幅を広げる必要がある。（会長）

■水のうるおいについて

- セリの話もあったが、水が豊かであるので水を活かした散策路ができるのはありがたい。清い水が出ている場である。（委員）

- 防災も絡んでいて、水はすごく重要である。（委員）

■人が集まる仕掛けについて

- 町田市を中心市街地に人をどうやって集めるのか。公園は非常に重要である。人が来るためにバーベキュー、ドックランは必要ではないか。何かないと人が来ない。（仮称）国際工芸美術館も興味のある人しか来ない。食べ物の提供もよい。（委員）
- ドックランについては、犬の散歩のフンの問題がある。犬の好きな人のために整備する必要はなく、絶対反対してくれと地元から言われている。（委員）

■駐輪場について

- 公園に駐輪場がない。各入り口にはない。これは考えていなかったのではないかと。（委員）
- 若干であるが、入り口に駐輪場所がある。また、冒険遊び場に設置している。（事務局）
- 結構自転車の利用が多くなるのではないかと。子どもたちが気軽に行けるように駐輪場はぜひ作ってほしい。現在は全体で30台程度である。（委員）

■外灯について

- 公園内が樹木で暗いなどの意見があったが、外灯の問題は重要である。予算では外灯の項目がなかった。整備スケジュールの第Ⅰ期に入れるべき。色々な人が来やすいし、防犯や防災の拠点となる。交流人口も多いので、防犯や防災機能の充実が重要である。最初から防災に考慮した整備をしてより多くの人が集まれる公園になれば良い。（委員）
- ゾーンごとに概算整備費を出している。計画書に書き込むため、細かい整備費用を積み上げている。外灯については、最初からご指摘いただいております、項目として入っている。（事務局）

■バリアフリーについて

- 正眼者のバリアフリーについては議論されたが、目が不自由な方のバリアフリーが語られなかった。正眼者の視点でこの公園を作っていたのではないかと感じた。反省点である。（委員）

■通学路との関係について

- 国際版画美術館南側から芹ヶ谷公園内の階段で町田第二小を通る通路が、照明がなく昼間でも暗い。他の道を通学路としてほしいという話もあった。通勤も然りである。60名程度が通学に利用している。（委員）
- 国際工芸美術館の建設が決り通学路をどうするのか議論になっている。（委員）
- 小さい公園の場合は、道路に隣接しているので、公園は通学路にしない。大きな公園は車が来ないし安全であるが防犯上の問題などがあって通学路としては外すケースが多い。公園を通学に使う場合は地域の方が気にかけるようにする、また、夜はだめだよというようなルールを作るケースもある。（委員）
- 田舎の公園と都市部の公園とは違う。都市部では、公園内を通った方が学校までショートカットができる。公園を通学路に設定することで、公園の使い方にもアクションできるのではないかと。例えば、学童のように、そこで遊べたり、話を聞けたりなど、色々な使い方に発

展してくるのではないか。（委員）

- 基本計画報告書の中で、通学の課題を書き込む。どのような課題を基にして公園内の再整備を行うのか、どのように配置していくのかが大事なので、「計画の課題」の項で、近隣住民が通る道としての防犯面の課題があると書いていくことが大事だと思う。（会長）

■その他

- 周辺から出された意見として、公園を議論するには、公園は知っていないといけない。委員のメンバーで公園内を回り議論した方がいいのではないかという意見も出た。（委員）
- 外灯のことなど、ひとつひとつの項目の中で、市民がイメージできるような分かりやすい書き方となるように工夫してほしい。（会長）
- 芹ヶ谷公園なので、ネーミングにちなんだ事をやっても面白いのではないか。カフェにセリを使ったメニューを提供する。芹ヶ谷公園の芹を増やし活用してはどうか。（委員）
- もみじ園も良いが、整備がされていないので整備してほしい。（委員）
- セリは昔たくさん取れたが、今でも10分の1程度であるが取れる。（委員）

関連計画との整合性について

■モノレールについて

- モノレールや都市計画道路の関係はどうなるのか。モノレールを踏まえた設計をしてほしい。（委員）
- 基本設計の時に道路計画がどれくらい着工しているのか、前提条件によって変わってくるかもしれない。芝生ゾーンはあまり影響がないと思うが、第Ⅱ期のアートイベントゾーンは関係してくるのではないか。（会長）
- モノレールは、国の交通政策審議会で審議中であり、来年3月くらいに答申が出る予定。東京都は、交通政策審議会に提示するため調査を進め、多摩市から町田市への延伸を優先的に検討すべき路線と位置付けている。また、町田市でも優先的に位置付けるように働きかけている。都市計画道路3・3・36号線について、東京都は、市民病院から木曽山崎団地方面へ整備中である。東京都は第四次事業化計画を策定中であり、今年度中に決まる予定。モノレールの路線でもあるため、町田市では都市計画道路3・3・36号線の延伸についても、優先的に位置付けるように働きかけている。モノレールは都市計画道路の整備後になることから時間がかかる。モノレールの車庫や駅についても決まっていない。町田駅が終点となるので、待機する場所として、芹ヶ谷公園周辺は有力ではないか。（事務局）
- 町田駅から1つめの駅としては芹ヶ谷公園が有力ではないか。しかし、いつになるのかは分からないため芹ヶ谷公園の計画の中には反映するのは難しい。計画はできていないが、将来的なことを考えて、モノレールが通る付近には、恒久的な建物は建てないとしている。仮設はモノレール沿いでも整備可能である。（事務局）